

和歌山平野だより

創刊号
2018. 05

<発行元>

近畿農政局
和歌山平野農
地防災事業所
調査設計課

住所
紀の川市貴志
川町神戸327-1

電話
0736-65-3360

広報誌の発刊に
あたって

本年4月に和歌山平野農地防災事業所長に着任しました齋藤伸と申します。

本事業では、大雨等による湛水被害から農地を守り、地域農業の発展のため水路や排水機場の改修などを行っています。

地域農業を支え、暮らしを守るため、関係機関と連携しながら事業を進めて参ります。工事においてご迷惑をおかけしますが、地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。この広報誌では、工事の進捗状況や関連情報などを定期的にお知らせさせていただきます。今後ともよろしくお願いいたします。

所長 齋藤 伸



地域の農業と歴史

和歌山平野地区の事業対象地域は、和歌山市、紀の川市及び岩出市の3市にまたがる紀の川の両岸に形成された地域で、水稻を中心に、キャベツ、はくさい、たまねぎ等の野菜や、もも、みかん等の果樹など、**多様な作物が生産される県下有数の農業地域**です。

紀の川流域は雨が少なく、農業用水を補うため、古代より紀の川の水を利用するための用水路が整備されてきました。これらの用水路は、農地に水

を送るだけではなく、地域の雨水を受け入れる排水路としての役割も果たしてきました。

こうした用水路の多くは江戸時代やそれ以前に作られ、その後改修などを経て現在も地域の農業に利用されています。古い歴史を持ち、暮らしに身近な施設として地域の景観を作り出しており、**国の登録有形文化財**※1や**世界かんがい施設遺産**※2に登録されているものもあります。

※1 消滅の危機に晒されている文化財建造物を継承していくため、保存や活用についての措置が必要な建造物を登録する制度。

※2 かんがい施設を将来にわたり受け継いでいくため、歴史・技術・社会的に価値の高いかんがい施設を登録・表彰する制度。



農地の役割と水害

農地には、農作物を生産するだけではなく、雨水を一時的に貯めたり、ゆっくりに地中に浸みこませることにより、大量の雨水が一気に周辺へ流れ出ることを抑える働きがあります。紀の川流域は昔から水害の発生しやすい地域でしたが、近年、急激な都市化による農地の減少やゲリラ豪雨の頻発によって洪水が発生し、**農地や宅地などの浸水被害が発生する危険性が高まっています。**

本事業で整備する施設の概要

本事業では、こうした浸水被害の軽減を目的として、平成26年度から平成40年度にかけて、次の排水施設等を整備します。

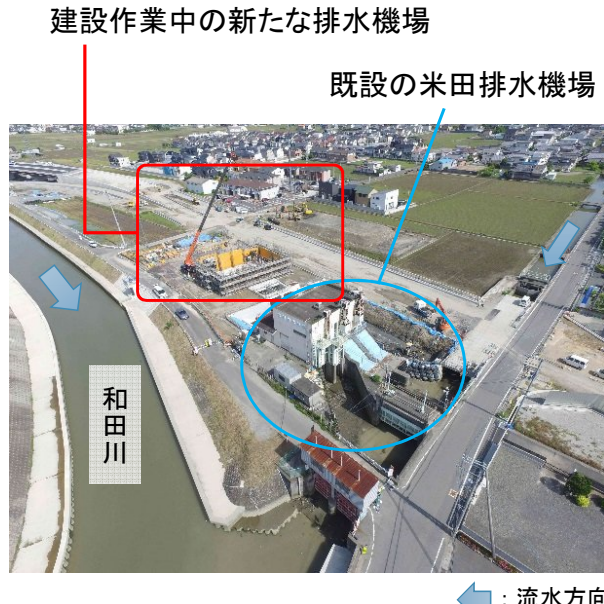
- ・排水機場 5箇所
- ・排水路 約45km
- ・洪水調整池 8箇所

なお、施設整備に当たっては（農林水産省が行う防災事業の一般的な基準である）10年に1回の確率で発生する程度の大雨（3日連続雨量254mm）を想定した整備水準で実施することとしています。

工事等進捗状況

① 米田排水機場建設工事

和歌山市内の和田川流域にある米田排水機場の排水能力を高めるため、改修工事を進めています。現在、既設機場の隣で新たな排水機場を建設中です。



② 安楽川井C水路工事

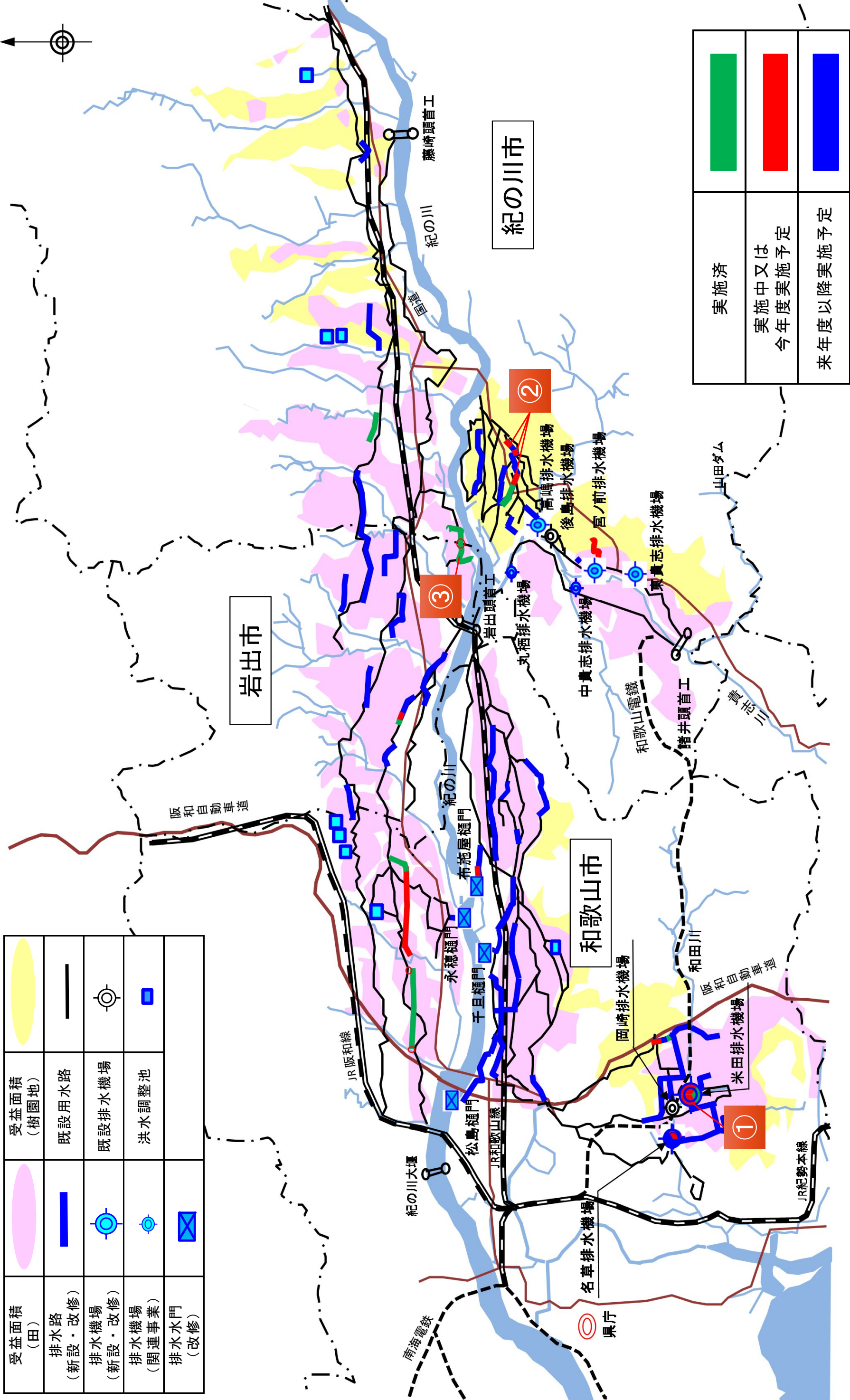
紀の川市桃山町にて、排水能力を高めた水路を地下に埋める（暗きょ化）整備とあわせて市道整備※3を行いながら工事を進めています。

③ 藤崎井支線水路（岡田排水路）工事

岩出市と紀の川市にまたがる水路に集まる排水の一部を紀の川へ放流するため、新たに排水路を設置しました。今年度は、排水維持管理に必要な施設を整備する予定です。

※3 紀の川市との共同事業。

和歌山平野農地防災事業 概要図



丸番号は表面の工事等進捗状況に対応